

SUSTAINABILITY REPORT 2020



MARUSHIN

Index

目次

1.	Index	1
2.	会社概要・経営理念・行動指針	2
3.	Future Vision 2030	3
4.	MARUSHIN's Activities	
	— Consumer	4
	— Partner	12
	— Personnel	14
5.	SDGs Activity・Message	18
6.	Opinion	
	— 第三者意見	19



丸眞株式会社

昭和41年(1966年)に名古屋市内にて創業。タオルを中心とした商品企画・販売で基盤を築き、1980年代より、任天堂・スタジオジブリ・ウォルトディズニー等大手キャラクターブランドとの契約も続けさせていただいております。

現在では名古屋の本社をはじめ、東京・大阪に支社を置き、また愛知県瀬戸市には自社の物流センターをかまえ、タオル製品だけにとどまらず雑貨、寝具やインテリア等幅広い商品の開発・販売をしています。



経営理念

私たちは、繊維事業を通して、夢と楽しさを創造し、
チャレンジ精神を持って前進します。

行動指針

MARUSHIN's Merchant Roots(MMR)

丸眞の商人としてのルーツ

求める人物像 商人として消費者を第一に考動する人

MARUSHIN's Merchant Roots(MMR)

1. Consumer First
何事においても、消費者を第一に考え行動します。常に消費者目線に立ち考え判断し、1人1人が安心・安全で高品質な魅力ある商品やサービスを安定的に提供し続けます。
2. Ownership
商人として経営者目線を持ち、会社の発展のため売上・利益を生み出します。会社を運営する一員として経営方針を理解し、意見を発信し合い、何事も主体性を持って行動します。
3. Samurai Spirit
謙虚な姿勢を持ち、礼儀・感謝を言動に表し、相手の立場で考え思いやりの心を持って素直に行動します。商人としての熱意を持ち丁寧な仕事を行い、消費者への誠実さを忘れません。
4. Fast Runner
商人として消費者のニーズや要望をいち早く察知し、即断・即決・即実行をし、より多くの商品を世界中に届けます。自らの行動で、周りを巻き込み諦めず成功するまで実行します。
5. Professional
消費者の信頼と満足を追及し、選ばれる人であり続けます。日々変化する消費者からの要望・ニーズを察知し応えるために、1人1人がプロである意識と学ぶ姿勢を持ち、知識・技術を磨きます。
6. Navigate
商人として高い目標を掲げます。目標達成のために社会情勢・市場の流れや情報を自ら取りに行き、現場・現物・現実を見て根拠のある予測をします。長期的な目線で戦略を考え計画性を持ち攻めの行動と共にリスク対策を行います。
7. Create Value
日頃から好奇心を持ちアンテナを張り、消費者の喜びのヒントを探し続けます。固定概念にとらわれず、チャレンジし、消費者に驚きや新たな発見に繋がる商品価値・サービスを提供します。
8. Upgrade
商人として、最善策を求め成長します。常に疑問を持ち生産性と効率を意識して、良いものは伸ばし、その上でより良いものを求めて改善・実行します。
9. Commitment
商人として掲げた目標に対して、スピード感と必ずやり遂げる強い意志・責任を持ち成果を出すまで諦めません。たとえ困難が生じたとしても、達成できる方法を考え粘り強く取り組みます。
10. Corporate Branding
丸眞のブランド価値を高めるため、社員1人1人が社会全体に目を向けて考え行動します。世界中の消費者に選ばれ続けるために、視野を広げ、商品価値向上・マーケット拡大をし、企業としての役割を社員全員で果たし続けます。

丸眞では、経営理念と行動指針 MMR の概念を軸とし、100年企業、そして選ばれ続ける企業を目指します。2030年までの長期目標を掲げた“Future Vision 2030”を基にサステナブル活動に取り組んでいます。

Future Vision2030

丸眞株式会社と未来を紡ぐ



丸眞は、タオルを中心とした繊維製品を事業の柱として、消費者をはじめとした関わる全ての人々の「夢と楽しさに溢れる未来」を「紡ぐ」ために、常に挑戦をしています。サステナビリティに配慮した企業経営は、より一層重要な課題です。ものづくりにおける環境への取り組みだけでなく、2025年までにより早く・より正確に消費者の元へ商品をお届けするための高度な自社物流機能の整備、物流 IT 人材の増員を推進していきます。

丸眞の商品を購入してくださる消費者の方々、パートナーの皆様、丸眞で働く従業員やその家族、そして地域社会すべての人から、選ばれ続ける企業を目指します。

私たちは、世界の MARUSHIN、そして100年企業を目指すとともに、豊かな社会の発展に寄与できるよう、挑戦・革新を続けます。

MARUSHIN's Activities

“Future Vision 2030”を基に、丸眞として社会的責任を果たしていくため、社会課題・事業課題から今私たちにできる4つのVisionに向けた3つの取り組みを設定しました。
皆様との小さな1歩の積み重ねが大きな1歩となり、新たな未来を紡ぎます。

取り組み内容	Vision
 Consumer 消費者と紡ぐ未来	丸眞の商品1つが社会課題解決への1歩に繋がります。また、環境に負荷をかけないサステナブルなものづくりや商品を通して、消費者の皆様と未来を紡ぎます。
 Partner パートナーと紡ぐ未来	商品製造・消費者にお届けする過程で、お取引先様・仕入先・地域社会等あらゆるパートナーシップを通じて未来を紡ぎます。
 Personnel 従業員と紡ぐ未来	従業員が健やかに、そして1人1人の可能性を伸ばし活躍し続ける社内制度を設計し、従業員とともに新たな未来を紡ぎます。
	1. 繊維商品を通して“夢と楽しさに溢れる未来”を創造します。 2. 素材選びで“サステナブルな暮らし”を提案します。 3. サプライチェーンにおける人権・環境配慮を徹底します。 4. 公平な人材育成・評価で従業員の可能性を伸ばし発揮できる組織を目指します。



→商品詳細はこちら

子ども支援 対象オリジナルブランド



yup! (ヤップ)
食品パッケージをモチーフにしたポーチなど食べ物にちなんだユーモア溢れる商品を展開中。



piccolino (ピッコリーノ)
「piccolino」はイタリア語で「小さくてかわいい」という意味。通園・通学が楽しく過ごせるようカラフルで元気なスクールアイテムにぴったりのデザイン。



SUN HEART (サンハート)
夏を思いっきり楽しむ太陽のように明るくて熱くて元気！自由で開放的な雰囲気溢れるブランド。



piccolino. SUN HEART. × 国連WFP協会「レッドカップキャンペーン」

対象商品のご購入が、子どもたちへの給食支援に繋がります。

▶ 飢餓に苦しむ子どもに、30円で1日分の給食を届けることができます。



飢餓と貧困の中に生きる世界の子どもたちへ、「学校給食」という希望を。



飢餓から救う。未来を救う。
WFP
国連世界食糧計画



→活動の詳細はこちら

世界では今、学校に通うことができず、貧しい暮らしを強いられる子どもたちが**5,900万人**。子どもたちの**5人**に**1人**が慢性的な栄養不良に陥っています。
国連WFP協会が行うレッドカップキャンペーンでは、赤いカップを目印に様々な対象商品が発売され、集まった寄付が途上国の子どもたちへの給食支援に繋がります。2011年に開始したこのキャンペーンでは、累計**2,000万人**以上のカンボジア・インドネシア・スリランカなど、世界中の子どもたちに学校給食が届けられています。

丸眞は、レッドカップキャンペーンに賛同し、3つの対象ブランドの売上の一部を寄付しています。



©Mayumi Rui

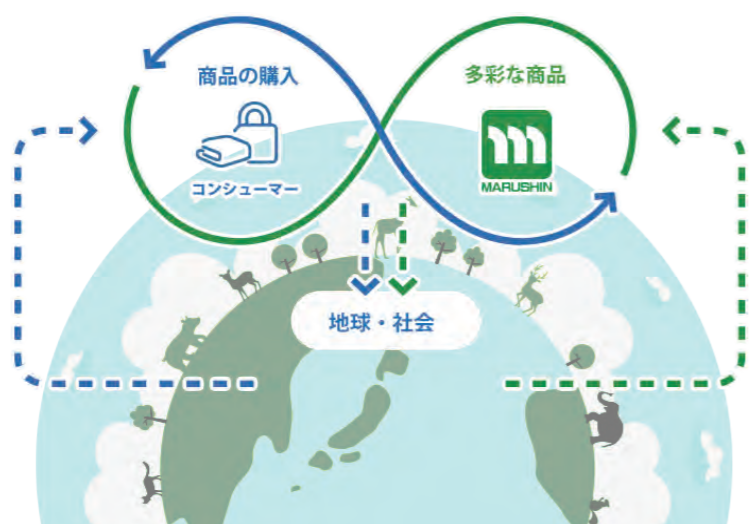
Vision

- | | | |
|---------------------------------|---|---|
| 1. 繊維商品を通して“夢と楽しさに溢れる未来”を創造します。 | × | Long Lasting Products
～未来へ続く商品～ |
| 2. 素材選びで“サステナブルな暮らし”を提案します。 | × | Products Innovations
～サステナブル素材～ |

Long Lasting Products ～未来へ続く商品～

丸眞では、売上の一部を社会支援団体へ寄付する商品を開発しています。社会支援に繋がる商品は「Long Lasting Products (=未来へ続く商品)」と総称し、様々な丸眞オリジナルブランドが対象です。Long Lasting Productsを通してコンシューマーの皆様の驚きや新たな発見に繋がる商品価値を提供し続け、コンシューマーの皆様と新たな未来を紡いでまいります。

Long Lasting Productsの対象商品をご購入いただくことが、様々な社会支援に繋がります。



<p>貧しい子どもたちへの食糧支援</p>	<p>緑を大切にする植樹活動</p>	<p>発展途上国の子どもワクチン支援</p>	<p>緊急災害時の復興支援など</p>
-----------------------	--------------------	------------------------	---------------------

▶ 具体的な支援の流れ



人道支援 対象オリジナルブランド



porukka pattern®

porukka pattern (ポルッカパターン)

“porukka(ポルッカ)”はフィンランド語で“仲間”を意味し、暮らしを大切にする北欧の仲間たちとの日々の生活を7つのテーマで表現。生活を彩る日常に寄り添った心地よいデザインが特徴。



porukka pattern®

× 認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)
 「子どもワクチン支援活動」

対象商品のご購入が、世界中の子どもたちを感染症から守る活動に繋がります。

▶ポリオワクチンはわずか**20円**。**100円**で**5人**の子どもの命を守ることができます。



ワクチンで助かる ちいさな命を救いたい。

世界では**20秒**に**1人**、ワクチンがないために命を落とす子どもたちがいます。ミャンマー・ラオス・ブータン・バヌアツ…など、様々な国の子どもたちがワクチンを必要としています。

認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを 日本委員会(JCV)が行う子どもワクチン支援活動では、世界の子どもを感染症から守るためのワクチンを確保し、感染症の完全予防対策を支援しています。

丸眞は、子どもワクチン支援活動に賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。



→活動の詳細はこちら



人道支援 対象オリジナルブランド



ガッツ!! GUTSI®

ガッツ!!
 いろいろな部活をモチーフにしたダサかわいいアイコンが目を引く部活デザインのシリーズ。



NOBLE COLOR

NOBLE COLOR (ノーブルカラー)

ホテルの客室で使われるような、生地がしっかりしていて、ボリュームのある極上のホテルスタイルタオルを展開中。



NOBLE COLOR



× ジャパン・プラットフォーム
 「緊急災害支援基金」

対象商品のご購入が、災害から人々の生活を守る活動に繋がります。



災害・人道危機から、 人々の平和な生活を守るために。

現在、自然災害で避難を余儀なくされるリスクは過去**約40年**で**2倍**になったといわれ、武力紛争の激化で人道危機はますます難化しています。

ジャパン・プラットフォーム (JPF)が行う緊急災害支援基金は、国内外の自然災害による被災者、紛争による難民・国内避難民に、迅速かつ効果的な支援に活用されます。

丸眞は、緊急災害支援基金に賛同し、2つの対象ブランドの売上の一部を寄付しています。



→活動の詳細はこちら



環境支援 対象オリジナルブランド



polku

polku (ポルク)

「小道、森の中にあるような細い道」という意味で、フィンランドの自然の中を散歩するようにデザインを楽しんでもらいたいという意味をこめたブランド。デザインはフィンランドに住む2人のデザイナーによって描かれている。



星 佐和子

marimekko へのデザイン提供などを行っているヘルシンキ在住のテキスタイルデザイナーです。「自然の美と記憶の中の風景」をテーマにデザインを制作しています。



Jenna Kunnas
 イェンナ・クンナス

フィンレイソンのフィンランド独立100周年を記念したデザインの「MUUTO」はイェンナが制作しています。フィンランドの自然を大胆に落とし込んだデザインが素敵です。



polku

×

公益財団法人オイスカ「子供の森」計画

対象商品のご購入が、世界各地の子どもたちの植林・育林の活動に繋がります。



世界各地の子どもたちとともに、緑の地球へ。

世界の熱帯天然林は毎年 1,000 万 ha、本州の 約半分に相当する面積が失われているとされています。

公益財団法人オイスカが行う「子供の森」計画では、子どもたちが学校や地域で苗木を植えて育てていく活動を通して「自然を愛する心」や「緑を大切にしたい気持ち」を養いながら地球緑化を進めています。この活動は、2021年3月末現在、フィリピン・マレーシア・スリランカ・フィジーなどのアジア太平洋諸国を中心とした 37 の国・地域から 5,343 の学校が参加しています。

丸眞は、「子供の森」計画に賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。



女性支援 対象オリジナルブランド



Pink Ribbon (ピンクリボン)

乳がんの正しい知識を広め、早期発見・早期診断・早期治療の重要性を広めるための世界共通のシンボルマークである“ピンクリボン”。タオル・エコバッグなどのアイテムを展開中のブランド。



×

乳房健康研究会「ピンクリボン運動」

対象商品のご購入が、乳がんで苦しむ女性を守る活動に繋がります。

乳がんで亡くなる女性を、1人でも減らし、乳がん患者やその家族にとって優しい社会を。

現在、毎年約10万人、生涯で9人に1人の女性が乳がんにかかると言われています。医療が進化した今でも、乳がんになった女性の約20%が乳がんで亡くなっています。

乳房健康研究会が行うピンクリボン運動では、乳がんによる死亡率を低下させるために正しい乳がんの知識を広める講演や女性検査技師の育成、またピンクリボンアドバイザー認定の推進を進めています。

丸眞は、ピンクリボン運動に賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。



動物支援 対象オリジナルブランド



wonderful peace (わんだふるピース)

補助犬とユーザーの「安らぎ」(peace)がパズルのように「ひとかけら」(piece)ずつ繋がるように願いを込めたブランド。



×

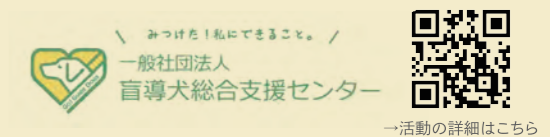
盲導犬総合支援センター

対象商品のご購入が、補助犬育成及び障がい者の社会参加の支援活動に繋がります。

もっと身近に、もっと楽しく盲導犬応援の輪を広げるために。

現在、日本全国で活躍している盲導犬の数は861頭(2021年3月現在)。盲導犬総合支援センターでは、目に障がいがある方、そのパートナーである盲導犬の育成を支援することで、盲導犬ユーザーと盲導犬がもっと安心・安全に、そして生き活きと歩くことができる社会を目指しています。また、応援の輪を広げるため、盲導犬ユーザーへのお手伝いの声掛けが分かるパンフレットの配布やチャリティーグッズの販売を行っています。

丸眞は、盲導犬総合支援センターに賛同し、対象ブランドの売上の一部を寄付しています。



Products Innovations ～サステナブル素材～

サステナブルな素材で安心を届ける商品。
丸真では、地球と人にとってサステナブルな環境に貢献する商品開発をしています。

オーガニックコットン

自然の恵みを生かした、サステナブルな生活に寄り添う繊維。

オーガニックコットンとは認証機関に認められた農地で、農薬・肥料の厳格な基準を守って育てられた綿花です。

丸真では、タオルの繊維商社として夢と楽しさ溢れ使い心地の良い商品をコンシューマーの皆様にお届けすることはもちろん、地球と人に配慮したオーガニックコットンを使用した商品を開発しています。サステナブルな生活に寄り添いながらも尚、商品・ブランドの世界観を引き出すことができるものづくりを続けています。自然の恵みを生かし、地球と人に配慮したサステナブルな環境作りに貢献しています。



オーガニックコットン

人にも、環境にも、優しいタオル

オーガニックコットン

オーガニック綿は認証機関に認められた農地で、農薬・肥料の厳格な基準を守って育てられた綿花の事です。農薬や化学肥料に頼らず土壌の持つ力によって育てられた、人と環境に優しい商品です。



© 1988 Studio Ghibli



再生ポリエステル / エコマーク

使用済みプラスチックから生まれる新たな繊維。

現在、プラスチックによる環境汚染が繊維業界においても重要な課題となっています。

丸真では、回収したペットボトルを原料とした再生ポリエステルを使った商品を開発しています。再生ポリエステルの使用は石油の使用量や、使用済みペットボトルの廃棄物量の削減ができるため、近年繊維業界において注目されています。

該当商品は再生ポリエステルを50%以上使用しており、「生産」から「廃棄」にわたるライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた証として、エコマークを表示しています。

商品開発に再生ポリエステルを取り入れることで、地球の環境課題解決へ貢献しています。



Vision

2. 素材選びで“サステナブルな暮らし”を提案します。



Products Innovations
～サステナブル素材～

SEK 制菌加工 / SEK 抗菌防臭加工

より良い「清潔」「衛生」「快適」を届けたい。

暮らしの衛生に関心が高まっている今だからこそ、生活用品を扱う繊維商社として、コンシューマーの皆様に安心・安全をお届けする使命があります。

「SEK 制菌加工」の商品は、繊維状の皮膚常在菌や有害細菌を特定し、増殖を抑える加工が施されています。また、「SEK 抗菌防臭加工」では、臭いの原因となる繊維状の細菌の増殖を抑え防臭します。現在、無地のカラータオルだけでなく、入園・入学商品はもちろんキャラクターの商品まで幅広くこの加工を施しています。

このような清潔かつ衛生面に配慮した商品開発で、コンシューマーの皆様の暮らしに安心というプラスαの価値をお届けしています。



TOM AND JERRY and related characters and elements © & ™ Turner Entertainment Co. (s21)



再生利用可能な副資材

不用品に新たな価値を生み出す。

再利用され新たな価値を生み出すのは、繊維だけではありません。

ギフト商材としての需要も高いタオルを扱う丸真では、通常破棄となるギフトボックスの台紙をポストカードとして再利用できるデザインで販売するなど、サステナブルなギフトボックスの展開にも力を入れています。ギフトボックス本体も手帳や本を入れる書類ケースや小物入れとして再利用できます。

不用品に新たな価値を生み出すことで、コンシューマーの皆様に夢と楽しさをお届けし、更に廃棄物発生を削減し、環境負担の軽減に貢献しています。



Illustrations Dick Bruna © copyright Mercis by, 1993-2021 www.mfy.com





Partner

パートナーと紡ぐ未来

丸眞のお取引先様・仕入先である工場や地域社会とともに取り組む活動



Partner

パートナーと紡ぐ未来

Vision

3. サプライチェーンにおける環境・人権配慮を徹底します。

コットン名刺

東北支援につながるコットン名刺の使用

丸眞では「東北コットンプロジェクト」の支援として、プロジェクトが栽培する綿花の木の繊維を含んだ名刺を使用しています。「東北コットンプロジェクト」とは東日本大震災の津波被害により稲作が難しくなった農地で、綿花の栽培を行うことで、被災地での雇用創出と経済の発展を支援する活動です。

コットンを使用した繊維製品を開発・お届けする丸眞として、コットン名刺を使用し、従業員1人1人が被災地とのつながりを実感することで、東北への支援の輪を広げています。



→東北コットンプロジェクト
詳細はこちら

FSC認証の推進

森林を守るため、適切な森林管理の認証を受けた資材の活用

FSC認証とは環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林からの製品であることを示す認証です。丸眞では、配送時に利用する段ボールはFSC認証段ボールを使用しています。物流機能を持ち日々多くの配送をする丸眞ができることとして、森林の減少を食い止め、これからは森林の恩恵を受けられるように FSC認証を取得した資材を積極的に取り入れ、紙製緩衝材と同様身近な取り組みから進めています。



→FSC認証詳細はこちら

災害支援

タオルや毛布を届ける被災地支援

繊維製品を専門に扱う丸眞では、災害発生時に不足することが多いタオルや毛布を被災地へ届けることで、被災地への物資支援を行っています。日用品を扱う丸眞だからこそ、被災地の方々の生活に寄り添った支援をこれからも積極的に行っていきます。

【災害支援実績】

- ・2011年3月 東日本大震災
毛布5,000枚 バスタオル20,000枚
- ・2018年7月 西日本豪雨
綿毛布2,000枚 バスタオル各種1,000枚
- ・2020年7月 九州豪雨
バスタオル・フェイスタオル合計11,000枚



紙製緩衝材の使用

プラスチック使用削減のための紙製緩衝材の活用

丸眞では、商品をコンシューマーの皆様、また、お取引先様へ配送する際、商品を傷つけないよう、プラスチック製の気泡緩衝材を利用しておりました。しかし、日々多くの配送にプラスチック製気泡緩衝材を利用することは、海の環境を破壊するプラスチックごみの排出に繋がります。

緩衝材は、商品を傷つけずにコンシューマーの元にお届けするために必要不可欠です。そのため、丸眞で使用する緩衝材を100%紙製品化することで、環境負担の少ない配送をしています。小さな取り組みではありますが、日々身近な取り組みから進めています。



Personnel

従業員と紡ぐ未来



従業員1人1人が持続可能な未来へ向けて
今できることに取り組んでいます。
従業員とともに紡ぐ未来へ向けた活動をご紹介します。

Work style

社内システム、オンラインツールの推進による 業務効率化とペーパーレス化



最新技術を活用した業務効率化と 環境負担削減の推進

丸真では、iphoneやipad、Surfaceといった電子機器の貸与を積極的に行っています。その結果、2021年度の電子機器貸与率は100%の実績となりました。(瀬戸物流センター現場の従業員を除く。)また、様々な社内システムの自社開発や、最新技術を導入することで、誰もが平等な職場環境を整え、企業のさらなる生産性の向上やペーパーレス化を目指します。

テレワークの導入

時と場所を問わない働き方

丸真では、テレワークシステム「CACHATTO(カチャット)」を導入しています。出社せず業務を濁りなく円滑に行える環境を整え、誰もが働きやすい職場・働きがいのある会社づくりに努めています。コロナ禍の感染対策だけでなく、産休取得直前の時期や災害発生時には、新たな働き方として導入していきます。



Vision

4. 公平な人材育成・評価で従業員の可能性を伸ばし発揮できる組織を目指します。

女性活躍推進企業認定

女性がいきいきと活躍できる企業へ

丸真では、女性従業員比率70%、女性管理職比率50%と、女性の比率が近年増加しています。このような女性の活躍が評価され、本社所在地の名古屋市から2021年1月26日に「女性の活躍推進企業」の認定を受けました。今後も、女性従業員のみならず全従業員が働きやすい環境づくりに取り組んでまいります。



従業員へのSDGs教育

全従業員でサステナビリティ戦略を

丸真では社内全体へのSDGs教育に力を入れています。SDGs教育の始めとして、2020年には、全従業員数の約50%がSDGs研修を受講しました。研修後、所属する部署でできることをそれぞれの従業員が自分ごととして考え、事業×社会貢献の取り組みを1つずつ実現するために動き始めています。丸真としてのサステナビリティは未だ始まったばかりではありますが、今後も全従業員一丸となり1歩ずつ着実に取り組みを強化してまいります。



丸真大学サテライトキャンパス

丸真ならではの平等な学びの場

丸真大学サテライトキャンパスとは、月に1度開催されている全従業員対象の研修制度です。自身の業務以外にも関心を持ち理解を深めるなど、各自が自発的な勉強をするきっかけとなる学びの場です。貿易・経理の知識や、電子機器・社内システムの活用方法などテーマは幅広く様々です。

従業員1人1人が成長することで生産性を向上させ、会社・経済の成長に貢献します。



Health

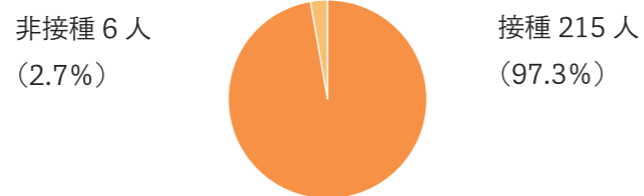
インフルエンザ 予防接種補助

すべての従業員に平等な健康を

毎年のインフルエンザの流行に備え、全従業員対象で一部会社負担の予防接種を行っています。

従業員が健康であることは、健全な企業運営を支える基盤であると考えます。丸眞は、今後も積極的に従業員の健康面に配慮した企業運営に取り組みます。

インフルエンザ予防接種 接種率



乳がん検診

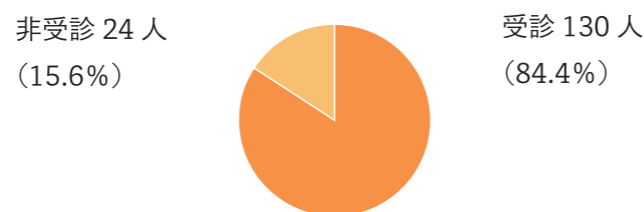
女性従業員を支えるプロジェクトの推進

毎年10万人の女性が乳がんを患い、乳がん患者のうち20%が亡くなっています。

女性従業員が多数在籍する会社であるからこそ、女性の活躍を支えるウーマンプロジェクトの一環として、全額会社負担にて全女性従業員に乳がん検診を推奨しています。

この他にも1人1人の女性に寄り添ったより良い健康生活を推進しています。

乳がん検診 受診率

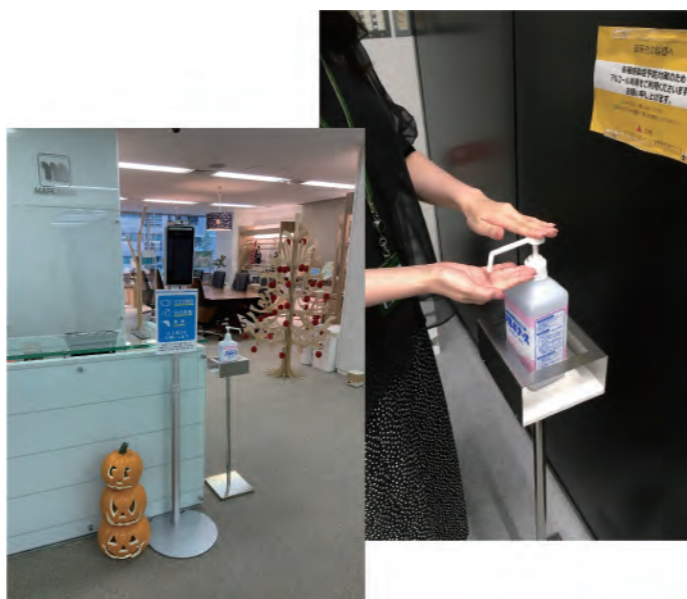


感染症対策

社内にて感染対策を徹底

コロナウイルスの拡大に対し、従業員やパートナーの皆様の安全確保、事業継続のため、会社としてできる感染症対策を進めています。

入社時の検温、手指消毒の徹底や施設消毒のための社内各エリアへのアルコールの設置。ミーティングエリアにはパーテーションを設置することで、感染拡大に備えたオフィス環境を整えています。



Recycle Topics

ペットボトルキャップ回収



ペットボトルキャップを集めて小さな命を救う

丸眞では、社内外で出たペットボトルキャップを回収することで、認定NPO法人 世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)の子どもワクチン支援活動に参加しています。JCVはペットボトルキャップを回収・リサイクルした売却益をワクチンに換え、開発途上国の子どもにワクチンを贈り、世界の子もたちの未来を感染症から守る活動をしています。すべての人の健康と福祉を実現するべく、従業員が身近な場所からできる取り組みを進めています。

■回収したペットボトルキャップの個数 … 78,463 個

今までに守れた子どもの笑顔 … 約 91 人 (2020年9月1日～2021年8月31日)



巻芯回収



巻芯を集めて地球の自然を守る

物流機能を持つ丸眞では、通常廃棄となる使用済み粘着テープの巻芯を回収し、段ボールとして再利用したり、森の植樹活動の支援に繋げる「ニチバン巻芯ECOプロジェクト」に参加しています。「ニチバン巻芯ECOプロジェクト」では回収した巻芯をダンボールに再生した利益で、マングローブの植樹や、植林や間伐など適切な手入れを行うことで、空気や水をきれいにしたり、土砂災害を防ぐ「森のしずく」保全活動に役立っています。

物流にとって必要不可欠な資源であるからこそ、使って終わりではなく、次に有効に使える方法はないか模索しています。

SDGs Activity

取り組み一覧

丸眞の様々な取り組みはSDGs目標の達成につながっています。目標達成のメカニズムとなるターゲットに沿って活動に取り組み、目指すべきゴールを明確にしています。



Consumer

Partner

Personnel

2 飢餓をゼロに
2.2 あらゆる形態の栄養不良をなくす

▶国連WFP協会
「レッドカップキャンペーン」

3 質の高い保健医療サービスを実現
3.8 すべての人々に対する保健医療サービスの実現

▶ICV 「子どもワクチン支援活動」
▶乳房健康研究会 「ピンクリボン運動」
▶SEK 抗菌・制菌防臭 加工

10 人や国の不平等をなくす
10.2 社会、経済、政治における包摂性の促進

▶盲導犬総合支援センター

11 住み続けられるまちづくりを
11.5 自然災害による被害を減らす

▶JPF 「緊急災害支援基金」

12 つくる責任、つかう責任
12.2 天然資源の持続可能な管理と利用

▶オーガニックコットン
▶再生利用可能な副資材
▶再生ポリエステル

15 陸の豊かさを保つ
15.2 森林減少の阻止と劣化した森林の修復

▶オイスカ「子供の森」計画

9 産業と雇用を創出
9.4 持続可能性のために、すべての産業とインフラを向上させる

▶東北コットン名刺

11 住み続けられるまちづくりを
11.5 自然災害による被害を減らす

▶タオルや毛布を届ける災害支援

12 つくる責任、つかう責任
12.2 天然資源の持続可能な管理と利用

▶FSC認証の推進
▶紙緩衝材の使用

3 質の高い保健医療サービスを実現
3.8 すべての人々に対する保健医療サービスの実現

▶乳がん検診
▶インフルエンザ予防接種
▶ペットボトルキャップ回収

4 質の高い教育をみんなに
4.4 経済的自立に必要なスキルを持つ人々を増やす

▶従業員のSDGs教育
▶丸眞大学サテライトキャンパス

5 ジェンダー平等を推進
5.5 リーダーシップや意思決定における女性の参画機会の確保

▶女性の管理職登用
▶女性活躍推進企業認定 取得

8 働きがいも経済成長も
8.2 高い経済生産性を実現するための多様化、技術向上、イノベーション

▶テレワークの実施
▶社内システム、オンラインツールの推進による業務効率化

12 つくる責任、つかう責任
12.2 天然資源の持続可能な管理と利用

▶巻芯回収

Opinion

第三者意見



「MARUSHIN Sustainability Report」

オフィスグラビティー 代表
中川 優

サステナビリティ戦略

「MARUSHIN Sustainability Report」(以下、「本Report」)の報告内容について評価し、第三者としての意見を述べます。まず本Reportの冒頭、丸眞のパーパスである「経営理念」、及びその10の行動指針として「コンシューマー重視」を軸にした「MARUSHIN's Merchant Roots ～丸眞の商人としてのルーツ～」を明確にしています。次いで、「サステナビリティ配慮」が経営においての重要課題であるという認識を示すと共に、「100年企業」に向けた長期的価値を「Future Vision 2030」として設定しています。これにより地球社会のサステナビリティ達成のための「丸眞の企業姿勢」を鮮明にしています。また優先的に取り組む必要のある4つのVisionを特定しています。

丸眞が紡ぐ未来

「Activities」では、「丸眞の未来を紡ぐための取り組み」を、コンシューマー、パートナー、従業員の3者の主要ステークホルダーの視点から、Visionへの取り組みを報告しています。「コンシューマーと紡ぐ未来」では、「寄付付き商品」(例:レッドカップキャンペーン、子どもワクチン支援活動等)の提供について、「タオル1枚が社会課題解決につながる」ことを訴求し、コンシューマーと協働する活動として位置付けています。また持続可能な素材として、オーガニックコットン等についても適切な情報提供がされています。これら主要な報告内容が、SDGs(持続可能な開発目標)の「ゴール3. すべての人に健康と福祉を」「ゴール8. 働きがいも、経済成長も」「ゴール12. つくる責任、つかう責任」等に紐づくゴールとして適切に特定されています。

SDGsは、2015年に国連で採択された「Transforming Our World(我々の世界を変革する)」の一部です。本Reportにより、丸眞の「100年企業」を見据えた「変革」(transform)が及ぼす新たな価値がステークホルダーと広く共有されることが期待できます。

今後の課題

- 今後とも「GRIスタンダード」等のレポートの国際基準の準拠に近づけたReport作りを目指すことを期待します。これにより、「世界のMARUSHIN」を標榜される丸眞にとって、グローバルで求められている非財務情報開示の強化が表明できます。
- 繊維製品を事業の柱にされる丸眞において、「Fast Runner」として、コンシューマーのニーズの先取りとして、関連業界の重要課題に触れる主張や情報を増やすことを検討してください。例えば、アパレル業界で注視されている「人権の問題」や「服から服のリサイクル」(例:サーキュラーエコノミー)がその一例です。
- 今回は、レポート内容が非財務情報(主に社会・環境)中心ですが、今後は、「Create Value」の観点から、経済・財務情報も充実することを検討してください。国内では地域の社会課題解決の期待から、行政及び地方銀行を中心に、企業のSDGsやサステナビリティの取り組みを評価する動きが本格化しつつあります。

Message

皆様へのメッセージ

この度は、丸眞株式会社のサステナビリティレポート 2020 をご覧いただきまして誠に有難うございます。丸眞として初めてサステナビリティレポートを制作させていただきました。冒頭に述べた「Future Vision2030」を掲げ、サステナビリティに配慮した企業経営の取り組みを始めましたが、未だ道半ば。これからも丸眞は、「夢と楽しさに溢れる未来」を紡ぐために、挑戦・革新を続け、コンシューマーの皆様、パートナーの皆様、丸眞で働く従業員やそのご家族、そして地域社会すべての人から選ばれ続ける企業を目指してまいります。毎年1歩ずつ着実に取り組みの幅を広げ積み重ねることで、大きな1歩とし新たな未来を紡いでまいりますので、今後とも変わらぬご指導・ご高配を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。

丸眞株式会社

第三者意見の手続き

オフィスグラビティーは、丸眞株式会社より「サステナビリティ・レポート」(以下、本レポート)に対する第三者意見の依頼を受け、これを実施しました。独立・公平の立場から、本レポートの報告内容について評価を行い、その基礎情報をもとに本意見書を作成しました。本レポートは「GRIスタンダード」(以下「GRI」)に準拠していませんが、報告された一般開示事項、経済/環境/社会開示項目を部分的に参照しました。よってオフィスグラビティーが、本レポートに公開されている定量及び定性情報が一般に普及している作成基準に準拠して正確に算定及び記載され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結果を表明するものではありません。

MARUSHIN SUSTAINABILITY REPORT 2020



【社名】
丸真株式会社

【報告対象期間】
第54期 2020年9月～2021年8月

【報告書発行】
2022年3月

【作成担当】
丸真株式会社 経営戦略室



丸真株式会社のサステナブル活動の取り組みにつきましては丸真株式会社CSRホームページをご確認ください。